

# 防災訓練

## 一秒でも早く高台へ逃げる

5月26日(火)に防災訓練が行われました。午前9時、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震が発生し、M9.1(震度7)を観測。青森県太平洋沿岸、陸奥湾及び青森県日本海岸沿岸に大津波警報が発令。これにより、青森県日本海沿岸に5mの津波が襲来し、本庁舎1階が浸水。道路・家屋・港湾・ライフラインの被害状況は不明(吾妻橋は通行可能)という想定の下、訓練が進められました。

大津波警報が発表された後、高台へ避難するよう放送が入り、役場職員は岡町防災広場へ避難しました。庁舎が浸水したという想定のため、広戸地区にある保健センターを代替庁舎とし、災害対策本部設置運営訓練を

実施。消防署長や消防団長、気象台、JR、N.T.T、東北電力、自衛隊等の関係機関も参集し、所管する施設等の被害情報の共有や自衛隊の災害派遣要請の手順を確認しました。

災害対策本部の訓練実施後は、庁舎1階が浸水し垂直避難した役場職員及び来訪者と土砂災害により孤立した長慶平地区の住民を救助する想定で、自衛隊ヘリコプターによるホイスト訓練を当町で初めて実施しました。役場屋上にて役場職員役と長慶平地区の住民役の自衛隊員が引き上げられ、搬送先の旧木造高校深浦校舎のグラウンドに待機していた自衛隊の高機動車に収容されました。

この他に町民体育館では、防災セミ



【ホイスト訓練の様子】避難者を抱え(写真上)、ヘリコプターに収容(写真下)

ナーが実施され、町職員を対象とした避難所設置に係る簡易テントや簡易トイレ、簡易折りたたみベッドの設置、非常用発電機の始動の仕方などを確認しました。

北金ヶ沢地区では、修道小学校児童による避難所開設訓練が行われ、併せて自衛隊による防災学習会が実施されました。学習会では、避難所の疫学やアルコール消毒による手指消毒、避難所における危害防止、新聞紙を使った応急スリッパの作成について学びました。車両展示では、東北電力ネットワークの高所作業車試乗体験が行われ、修道小学校児童は貴重な体験に目を輝かせていました。また、炊き出し訓練も行われ、200名分のカレーが用意され、女性消防団員が炊き出し支援を行っていました。



高台へ避難する役場職員



災害対策本部訓練の様子



自衛隊による炊き出し訓練の様子



女性消防団による炊き出し支援

### 深浦町防災訓練講評

深浦町防災訓練が5月26日、町内全域で実施されました。参加いただきました町民の皆様は御礼申し上げますとともに、怪我や事故の報告も無く、規律正しい訓練を行うことができましたことに、町民及び関係各位の御協力のおかげと心より感謝申し上げます。

後発地震注意情報の2022年12月の運用開始から3年半の間に当町が対象地域に含まれる北海道・三陸沖後発地震注意情報が2度発表されました。

初めて発表された昨年12月8日の青森県東方沖を震源とするマグニチュード7.5最大震度6強を観測した地震からわずか5か月後の今年4月20日にも同等の地震に伴う注意情報が発表。予測不能かつ頻発・激甚化する地震がもたらす莫大な力に改めて驚愕しているところであります。

今年、日本海中部地震から43年目になりました。「甚大な被害、津波の恐怖を決して風化させてはならない」との思いを、改めて町民と共有できたと思っています。

今年度の防災訓練も、地域住民と修道小学校児童による避難所設置訓練を併せて実施しました。災害発生時における共助の意識、地域が連携

した防災対応の重要性を深く認識いただいたものと感じております。

また、陸上自衛隊の御協力により修道小学校において防災学習会を行ったほか、女性消防団員と合同の炊き出し訓練も実施しました。

また、浸水等により移動不可能な避難者をヘリコプターが空中停止し、吊り上げて救助するホイスト訓練を当町において初めて行いました。真に実災害時に近い訓練と町民の不安払拭の一助となりました。防災訓練へのヘリコプター運用計画に関しまして御尽力いただいた陸上自衛隊に改めて感謝いたします。

更に、幹部職員を対象とした防災セミナーでは、災害発生時における避難所運営に際し必要な知識を体験・再確認できました。

次に、災害対策本部訓練ですが、昨年に引き続き深浦町業務継続計画に規定する指定参集場所の一つである深浦町保健センターに本部を設置しました。自衛隊を始め、深浦消防署、青森地方気象台、東日本旅客鉄道株式会社、N.T.T東日本株式会社、東北電力ネットワーク株式会社、深浦町社会福祉協議会様にも参加いただき、より本番に近い状況で訓練できたと感じています。

災害はいつ発生するかわかりません。訓練で出来ないことは本番で出来ないことを肝に銘じ、訓練のため

の訓練ではなく、実効性ある訓練を今後も実施していく必要があります。職員及び関係者の皆様には本訓練の学びを活かし、町民の安全・安心に繋がる努力を継続していただきますとともに、町民の皆様には私が掲げる公約の一つである「防災のまちづくり」に御理解と御協力を賜りますことを切にお願いするものであります。

「災害は忘れた頃にやってくる。」私達は43年前の日本海中部地震の記憶を風化させない努力をこれからも続けて参ります。

結びに、今回訓練に参加協力してくださりました鯉ヶ沢警察署、鯉ヶ沢地区消防事務組合、陸上自衛隊第39普通科連隊及び第9飛行隊、自衛隊青森地方協力本部、青森地方気象台、東日本旅客鉄道株式会社、東日本電信電話株式会社、東北電力ネットワーク株式会社、深浦町社会福祉協議会、深浦町消防団の方々に、改めて御礼申し上げますとともに、参加していただきました町民の皆様にご感謝申し上げます、訓練の講評といたします。

令和8年5月26日

災害対策本部長

町長 平沢 一臣